

予 約 必 要

2020年10月15日 スペースたんぽぽ 講座番号 653 新ちょぼゼミシリーズ「オルタナティブな日本を目指して」(ちょぼちょぼ市民によるちょぼちょぼ市民のためのゼミナール) 第51回

21世紀の交通のあり方を問う ～リニア・高速交通から低速交通の時代へ

講師：上岡直見さん (かみおか なおみ) さん

1953年東京都生まれ。環境経済研究所代表。1977年早稲田大学大学院修士課程修了。技術士(化学部門)。1977年～2000年化学プラントの設計・安全性評価に従事。2002年より法政大学非常勤講師(環境政策)。2004年国立市「自転車の似合うまちづくり委員会」委員。2005年国土交通省中国運輸局「環境負荷に配慮した瀬戸内海スロートゥリズム創出検討委員会」委員。2005年松本市「松本・四賀直結道路市民意向確認研究会」委員。2007年荒川区「荒川区環境交通省エネルギー詳細ビジョン策定委員会委員」委員。2006年～2018年交通エコロジ・モビリティ財団「環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会」委員

新幹線、高速道路、地方空港と、我が国政府は高度経済成長期以来、一貫して「高速交通」を中心とした交通インフラの整備に邁進してきました。しかし、21世紀に入って我が国が人口減少社会に突入する中、バブル崩壊以降の経済不況の長期化や地域経済の落ち込みに伴い、高速長距離輸送ではない、まさに私たちの生活の足である地域交通事業者の経営が厳しい事態に追い込まれています。特にマイカーを持たない高齢者や学生たちにとっては欠かせない路線バスや地方鉄道などの「地域の足」が、経営難から年を追うごとに消えていく事態が生れており、加えて昨今の新型コロナ PANDEMICによる「外出自粛」がこれに拍車をかけ始めています。しかし政府は、こうした身近な公共交通への支援や再生政策を不十分にしたまま、他方で、引き続き新幹線や高速道路の整備や、昨今では問題だらけのリニア建設などに注力をするなど、時代にそぐわなくなっている政策を転換しようとはしておりません。今回は交通政策にお詳しい上岡直見さんにおいでいただき、「21世紀の交通のあり方」をどう考えていくべきなのか、詳しくお話をお聞きしてみたいと思います。(なお、最初の1時間は主催者側より事務連絡やプレゼンを行う予定です)

10月15日(木) 18時～21時(開場17時30分)

会場：スペースたんぽぽ 参加費(資料代含む)：800円(学生400円)

たんぽぽ舎のあるダイナミックビルの4階 JR水道橋駅西口から5分：水道橋西通りを神保町方面に向けて左折、グローバルスポーツビル、GS跡地(セブンイレブン)を過ぎて鉄建建設本社ビルを過ぎたら左折。

東京都千代田区神田三崎町2-6-2 tel 03-3238-9035 fax 03-3238-0797

Email: nonukes@tanpoposya.net URL: <http://www.tanpoposya.com/>

上岡直見さん

